



令和5年4月25日

## 兵庫県内経済情勢報告 (令和5年4月判断)

### 1. 総論

#### 【総括判断】「持ち直している」

項目	前回 (5年1月判断)	今回 (5年4月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	

(注) 5年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

#### (判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。以上のことから、県内経済は、持ち直している。

#### 【各項目の判断】

項目	前回 (5年1月判断)	今回 (5年4月判断)	前回比較
個人消費	持ち直している	緩やかに回復しつつある	
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
雇用情勢	持ち直しつつある	テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある	
設備投資	4年度通期は前年度を上回る見込みとなっている	4年度通期は前年度を上回る見込みとなっている	
企業収益	4年度通期は増益見込みとなっている	4年度通期は増益見込みとなっている	

#### 【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外経済の下振れが景気の下押しリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

**百貨店・スーパー販売**は、スーパーでは、物価高の影響により一部の商品で買い控えが生じる一方で、外出機会の増加に伴い総菜や冷凍食品などが好調であるほか、百貨店では、出社を含む外出機会の増加に伴いスーツや化粧品などが好調なことから、緩やかに回復しつつある。

**ショッピングセンター販売**は、各種イベントなどの外出機会の増加に伴い衣料品や飲食店が好調であることなどから、緩やかに回復しつつある。

**コンビニエンスストア販売**は、外出機会の増加によりカウンターまわりの商品や総菜などが引き続き好調であることから、持ち直している。

**ドラッグストア販売**は、外出機会の増加に伴い化粧品などが好調に推移していることから、持ち直している。

**ホームセンター販売**は、新年度を迎えて、新生活関連商品は好調に推移する一方、家庭用品や家具は、巣ごもり需要の反動減などから、前年を下回っている。

**家電大型専門店販売**は、電気代の高止まり等により、省エネ性能の高い商品が堅調に推移する一方、巣ごもり需要の反動減などから、横ばいの状況にある。

**乗用車の新車登録届出台数**は、軽自動車や普通車が増加していることなどから、前年を大きく上回っている。

**その他**、宿泊施設や飲食店においては、着実に客足が戻りつつあるなど、緩やかに回復しつつある。これらのことから、個人消費は、緩やかに回復しつつある。

#### (主なヒアリング結果)

- 出社を含む外出機会の増加に伴い、スーツやカジュアル衣料、化粧品の売れ行きが回復している。また、宝飾品等の高額品は引き続き好調を維持。 (百貨店・大企業)
- 物価高の中で、生活防衛意識の高まりにより、単価の高い牛肉の売上が減少し、豚肉や鶏肉の売上が増加するなど、消費動向がシビアになっている。一方、外出機会の増加により、総菜や冷凍食品、飲料、菓子類等が好調に推移。 (スーパー・大企業)
- 学校行事などの各種イベントの本格的な再開や、行動制限解除に伴う外出機会の増加に伴い、ハイブランドやカジュアル衣料、スポーツブランドなどの衣料品全体が好調に推移。加えて、韓国や台湾、東南アジア（タイ、インドネシア、シンガポール）からのインバウンドが順調に回復している。 (ショッピングセンター・中堅企業)
- コロナ禍前には及ばないものの、外出機会の増加に伴い来店客数が増加している。また、おむすびやフライヤー、総菜等が好調なことから客単価も上昇している。 (コンビニエンスストア・大企業)
- 外出機会の増加に伴い、今年に入って化粧品などが好調。 (ドラッグストア・大企業)
- 新年度を迎え、新生活関連商品は好調に推移する一方、家庭用品や家具は、コロナ禍で売れた反動から減少。また、物価高により様々な商品が値上がりしており、消費者も商品ごとに店を選択するようになった結果、競合他社へ人が流れ、来店客数、買上点数ともに減少している。 (ホームセンター・中小企業)
- 家電については、電気代の高止まり等により、省エネ性能の高い商品が堅調に推移。一方で、ヒット商品がなく他の小売業態ほどの勢いがいない状態。 (家電量販店・大企業)

- 新型車が好調な普通車に加えて、軽自動車も好調。半導体不足の影響については、直接的な影響は解消したものの、受注残の状況が続いている。 (自動車販売店・中堅企業)
- 今期の宿泊人数及び売上高は令和元年のコロナ禍前の水準を超えており好調。昨年の行動制限緩和後は全国旅行支援等の影響もあり個人客を中心に回復が顕著。客単価の高いハイクラスの部屋も引き続き好調である。 (宿泊・中小企業)
- 今年3月中旬からマスク着用が個人の判断に委ねられてから、人の流れががらっと変わった印象。個人客を中心に客足は好調である。 (飲食・中小企業)

## ■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

鉱工業指数（生産）は、「輸送機械工業」や「鉄鋼・非鉄金属工業」等が低下しているものの、「化学」や「電気・情報通信機械工業」等が上昇している。なお、企業からは、原材料価格高騰の影響を受けているという声が聞かれる。ただし、国内外需要の増加に伴い受注が増加しているところもある。これらのことから、生産活動は、緩やかに持ち直している。

### (主なヒアリング結果)

- 長引く原材料価格高騰の影響を受け、販売価格への価格転嫁を積極的に行っているものの、転嫁できない部門もある。また、原材料価格高騰の影響により、販売価格上昇などが原因で受注が減少している部門があるなど、生産に影響が出ているところもある。海外需要については、中国や欧州の一部で減少している一方、インドや中東等で増加傾向にあり、今後も増加に期待している。 (鉄鋼・大企業)
- 国内需要は、エネルギー・環境事業等を中心に増加傾向にあり、一部事業において、新型コロナウイルス感染拡大に伴い経営が悪化した取引先から受注の先送り等が発生していたものの、状況は改善しており、足下では増加傾向にある。一方で、原材料価格高騰の影響により業績が悪化した取引先への価格転嫁に苦戦しており、一定の売上を見込んではいらぬものの、受注動向を懸念している。 (輸送用機械・大企業)
- 前事業年度の販売はコロナ禍前を上回ったものの、原材料価格、海上運賃、燃料費の高騰により、利益は大幅減。なお、今事業年度は、販売が好調な主力事業において、海上運賃を含む費用の低減を図るために地産地消比率を上げ、値上げ効果も加わり増益を見込む。 (その他製造・大企業)
- 原材料価格高騰により仕入価格が上昇しているものの、販売先への販売価格見直し交渉に時間を要しており収益が厳しい状況にある。 (食料・中小企業)

## ■ 雇用情勢 「テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある」

令和5年2月の有効求人倍率を令和4年11月と比べると、受理地別では1.02倍、就業地別では1.17倍とともに低下しており、新規求人数の増加もこのところ鈍化している。

なお、法人企業景気予測調査の従業員数判断BSIについて、全産業の現状判断は、令和4年10～12月期調査の26.1%ポイントから令和5年1～3月期調査の28.5%ポイントに「不足気味」超幅が拡大している。

以上のことから、雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。

### (主なヒアリング結果)

- 足下の有効求人倍率の低下については、新型コロナウイルス感染拡大が落ち着いたことや、物価高により年金だけでの生活が苦しくなった高齢者を中心に新たな求職者が増えている。また、新規求人については、物価高・エネルギー高により利益が圧迫され、中小企業の建設業や製造業で減少している。 (公的機関)
- コロナ禍における人員の余剰感については、社内外への出向・応援等で対応してきたが、現状は改善しつつあり、全体的には適正や不足気味へと転じている。 (輸送機械・大企業)
- 定期昇給以外の賃金の引上げについては、内部留保が十分でなく収益状況から考えて難しいことから、検討できていない。 (電気機械・大企業)
- 研究職、工場での作業員ともに不足している。 (化学・大企業)
- 飲食店では、時給を上げて募集を行っても人手不足感が続いている一方で、営業時間の短縮など働き方改革を行っているテナントでは、必要な人員を確保できている。 (小売・大企業)
- 従業員数に余裕がなく、宿泊対応はぎりぎりの人数でやりくりしており、宿泊を伴わない宴会は現在休止している。 (宿泊・中小企業)
- 離職者が多く人手不足は続いているものの、募集をかけても人が集まらない状況。賃金については、コロナ禍で中止していたベースアップを今年は再開する予定。中止していたベースアップ分を上乗せするため、例年より大きく昇給する見込みである。 (宿泊・中小企業)

## ■ 設備投資 「4年度通期は前年度を上回る見込みとなっている」

法人企業景気予測調査（令和5年1～3月期調査）でみると、4年度通期の設備投資は、製造業では「鉄鋼」等が前年度を上回っており、非製造業では「物品賃貸」等が前年度を下回っていることから、全産業では「前年度を上回る見込み」となっている。

## ■ 企業収益 「4年度通期は増益見込みとなっている」

法人企業景気予測調査（令和5年1～3月期調査）でみると、4年度通期の経常利益は、製造業では「化学」等が減益見込みとなっているものの、非製造業では「運輸・郵便」等が増益見込みとなっていることから、全産業では「増益見込み」となっている。

## 【その他の項目】

- **住宅建設** 新設住宅着工戸数（令和5年2月、後方3ヶ月移動平均）で見ると、前年を上回っている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額（令和5年3月、年度累計）で見ると、前年を上回っている。
- **輸出入** 神戸港の通関実績（円ベース、令和4年12月-令和5年2月、3ヶ月平均）で見ると、輸出は、建設用・鉱山用機械等が増加していることから、前年を上回っている。  
なお、輸入も、前年を上回っている。
- **企業倒産** 企業倒産件数（令和5年1-3月、3ヶ月平均）は、前年を上回っている。
- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和5年1~3月期調査）の景況判断BSIで見ると、現状判断は「下降」超となっている。  
先行きについては、令和5年4~6月期は「下降」超で推移し、令和5年7~9月期は「上昇」超に転じる見通しとなっている。

(注) 本文中、大企業とは資本金10億円以上の企業を、中堅企業とは資本金1億円以上10億円未満の企業を、中小企業とは資本金1億円未満の企業をいう。

【問い合わせ先】 神戸財務事務所 財務課 Tel : 078-391-6942
---